授 業 概 要

分 野	統合分野	科目名	在宅看護論実習	担当講師	橋本みどり
実施年次	3年次	単位数	2単位	時間数	90時間
<p>科目設定のねらい</p> <p>人々の生活は、本来住み慣れた地域で営まれており、その人がその人らしく過ごせる場である。住み慣れた地域・家には、その人が長年築いてきた生活があり、固有の信念や価値観がある。また、今後の人生設計をしながら望む生活に向かって生活を営んでいる。病気や障害をもちながらも、人々は住み慣れた場所で自分らしく生活できることを望んでおり、看護者には人々が主体的に生活を営んでいくことをサポートする役割がある。在宅看護の対象は、年齢や疾患を問わず地域で生活をしているすべての対象者とその家族である。在宅看護論実習では、訪問看護に同行して、多様な生活状況や価値観に触れることで個別の生活のありようを知り、あたりまえの生活がもつ価値や意義を学ぶ。家族も生活を営んでおり、介護の協力者としてではなく、家族の生活も大切にしたい支援の方法を学ぶ。</p> <p>また、訪問看護師が健康的な生活を維持・向上させるために、起こりうることを予測し予防することと、訪問しない時間帯も保証するため事故や災害から身を守る指導を行うなど、専門職としての看護実践の方法を学ぶ。</p> <p>人々の生活を支えていくために、在宅ケアチームの役割と機能を知り、社会資源活用における看護師の役割とケアマネジメントについても学ぶ。</p> <p>在宅看護論実習において生活を把握する視点を養い、その人らしさを追求することで在宅看護に対する興味関心が深まり地域包括ケアの重要性を再認識する。</p>					
時間	単元目標	内 容			
90	<p>1. 地域で療養している人々と家族の生活を見て、そこで行われている看護を理解する</p> <p>2. 受持ち療養者の健康状態、治療内容、在宅生活行動（ADL/IADL）、心理・社会面を理解する。</p> <p>3. 家族機能アセスメントを行い、家族に対する看護を考えることができる。</p> <p>4. 地域で療養している人々と家族の生活を支えている関連職種との連携や社会資源の活用を理解する</p> <p>5. 受持ち療養者と家族を支えている地域包括ケアシステムを理解し、連携・協働できる。</p>	<p>1) 地域で生活する成人期・老年期にある療養者・家族に対して心から関心を寄せ、様々な生活状況を理解しようとする。</p> <p>2) 地域で生活する様々な療養者・家族に対する看護の内容・必要性について関心を持って理解しようとする。</p> <p>3) 受持ち療養者の健康状態、治療を理解し、それが在宅生活行動（ADL/IADL）に与える影響を理解している。</p> <p>4) 受持ち療養者の在宅療養生活に対する心理面を理解している。</p> <p>5) 受持ち療養者の家族にとって、介護が家族の生活・健康状態・心理面にどのように影響を与えているか理解しようとする。</p> <p>6) 地域で生活する様々な療養者・家族を支えている関連職種の役割と連携・社会資源の活用を理解する。</p> <p>7) 在宅療養生活を支える通所リハビリテーションの役割と機能、そこで行われる看護を理解する。</p> <p>8) ケアマネジメントの実際を理解する。</p> <p>9) 受け持ち療養者・家族が利用している社会資源の種類と支援内容、活用状況を把握し、療養者の状況から必要性をアセスメントができる。さらに今後の生活維持に向けて他に必要な社会資源はないか考えられる。</p>			

	<p>6. 受持ち療養者・家族の「その人らしく自立した生活」を支える看護実践ができる。</p> <p>7. 在宅看護に対する興味関心が深まり、看護の意義を実感できる</p>	<p>10) 受持ち療養者・家族のニーズに対応した地域包括ケアシステムに関係する多職種の役割を理解し、連携・協働するために、在宅ケアメンバーとコミュニケーションがとれる。</p> <p>11) 療養者・家族が抱える健康問題を解決するための看護の方向性、援助方法を考えることができる。</p> <p>12) 次回訪問までに起こり得る出来事を予測して行動する重要性を理解している。</p> <p>13) 看護師・多職種との訪問同行で、指導を受けながら、訪問看護活動に参加できる。</p> <p>14) 受持ち療養者・家族に対して健康問題を解決するための看護援助をしようとする。</p> <p>15) 常に対象者を尊重し、援助者としての自己を意識したコミュニケーションにより信頼関係を構築しようとしている。</p> <p>16) 訪問看護における感染予防対策・事故防止対策を理解し、療養生活の安全管理について理解している。</p> <p>17) 療養者・家族の自己決定の尊重、自立支援を考えた看護であったかクリティークする。</p> <p>18) 保健医療福祉チームにおける、看護師の役割と意義を説明する。</p>
評価方法	出席時間、実習要項に準ずる	

授 業 概 要

分 野	統合分野	科目名	総合実習	担当講師	橋本みどり 全教員
実施年次	3年次	単位数	2単位	時間数	90時間
<p>科目設定のねらい</p> <p>看護チームの活動に参加し、看護実践能力を高めるとともに、これまで学んだことを統合して、看護の本質を考え、看護活動に活かすことができる能力を養うことをねらう。</p> <p>そこで、看護チームにおける看護マネジメントを理解し、1人の看護師が組織の理念に基づき、どのように複数の対象者のニーズに対して、最善の看護サービスを提供しているか、その判断過程と看護実践を理解する。</p> <p>これまでの実習で対象者を大切に思い、対象者中心の看護を考え実践してきた。改めて、病院組織から対象者を大切にする看護について考え、看護の本質を追求し「看護とは何か」を問い、じっくり看護を考える。</p> <p>また、夜間帯・複数受持ちなどの実習を体験することで、実務での看護の実際を理解し、働く自分をイメージすることで、看護実践者に必要な能力が具体的になり自己の課題に向かって自己研鑽する動機付けとしたい。そして、看護専門職としての役割・責務・態度について学習を深めることで将来のキャリアを見据えるための一助とする。</p>					
時間	単元目標				
90	<ol style="list-style-type: none"> 1. 病院組織における、看護部門の役割・看護の実際が理解できる。 2. 複数の対象者を受け持ち、看護ケアの優先度を判断しながら看護が実践できる。 3. 専門職としての、看護の責任と業務について理解できる。 				
評価方法	出席時間・実習評価は実習要項に準ずる				